

対馬海峡西水道における底層冷水の流況・海況特性

大村 浩一・川建 和雄
(筑前海研究所・九州大学応用力学研究所)

Current Structure and Hydrographic Features of the Bottom Cold Water
in the Western Channel of the Thushima Strait

(Chikuzenkai Laboratory, Research Institute for Applied Mechanics Kyushu University)

沿岸海洋研究 34 (1), 65-70 (1996)

対馬海峡(大韓海峡)西水道には、夏季に日本海から底層冷水が進入してくる。この冷水の特性を既存の海洋観測資料、1992年7, 8, 10, 11月に観測した西水道でのSTDデータ、及び1991年8~9月に測流した西水道底層での流速データを用いて、分布及び流動面から検討した。

冷水の進入時期は年による変動がおおきいが、冷水の進入が一旦起こると、6~10カ月間にわたって分布する。冷水とその上層の対馬暖流との間に形成される水温躍層は120~160m深にあり、冷水の厚みは海底から60~70mに達する。冷水の流動は海底地形の影響を受けており、その平均流速は南西方向に0.06m/sであった。

豊前海の小型定置網における袋網位置別投棄魚種組成

濱 田 弘 之

Comparison of Discarded Species Composition between Bag-nets Set at
Different Positions in a Small Set-net in the Buzen Sea, Inland Sea of Japan

Hiroyuki HAMADA
(Chikuzenkai Laboratory)

Nippon Suisan Gakkaishi 63 (1), 43-49 (1997)

魚類4種、カニ類2種について、小型定置網の袋網毎に投機魚数を調査した。魚類は側網両端部に位置する袋網で多く入網する傾向が認められ、その傾向はスズキで顕著であった。一方、カニ類は側網の中央寄り(沖側)の袋網に多く入網した。このような入網する袋網位置の

を遊泳行動と網構造の観点から考察した。出荷されたエビ類は側網の中央付近の袋網で漁獲されることから、スズキ幼魚などの投機対象魚類の混獲を防ぐために側網両端部の袋網の網目を拡大しても、エビ類の漁獲の減少は少ないものと推測される。